



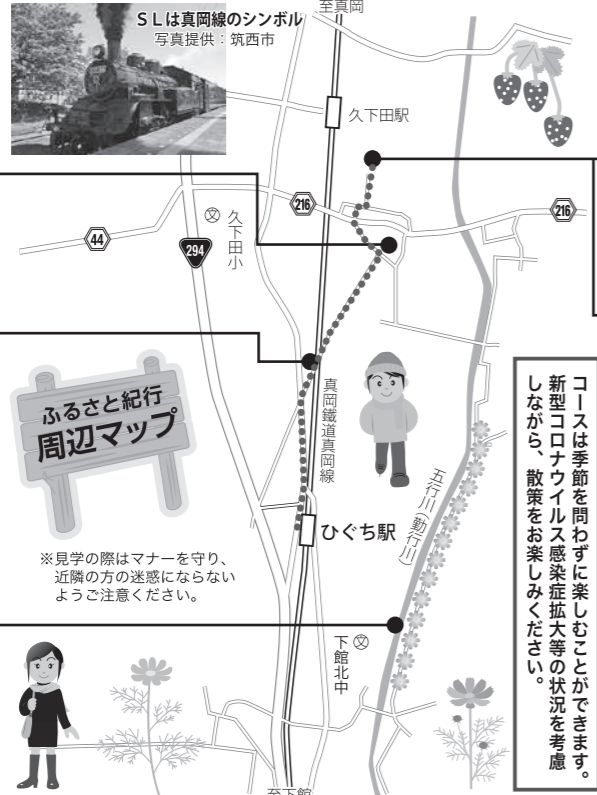
●樋口雷神社  
創建は寛治元年(1087年)で、祭神は別雷神(わけいかづちのおおかみ)。本殿は安永5年(1776)年に再建されている。



●樋口雷神社参道入口  
ひぐち駅から神社に向かうと、参道を示す大きな鳥居がある。ここをくぐってまっすぐ進むと樋口雷神社にたどり着く。

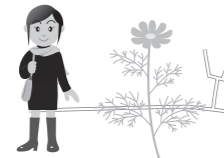


●五行川(勤行川)コスモスロード  
例年10月中旬から11月上旬、五行川のほとり約1.5kmにわたって地元のボランティアが栽培したコスモスが咲き誇る。



ふるさと紀行  
周辺マップ

※見学の際はマナーを守り、近隣の方の迷惑にならないようご注意ください。



●久下田城跡(石碑)



●久下田城跡(稲荷神社)  
県の指定文化財になっている久下田城跡。天文14年(1545年)に、下館城主の水谷正村が築城した。高台に立つ城は、空堀、土塁、水堀など多くの遺構が残り、本丸跡には稲荷神社が鎮座する。



道の駅 グランテラス筑西  
令和元年7月、国道50号沿いにオープンした北関東最大級の道の駅。オープン9カ月後には来場者100万人を超えた。筑西市の情報や名産品がそろったほか、芝生広場や遊具などもある。

駅からのふるさと紀行 真岡鐵道

# ひぐち駅

くげた おりもと  
久下田 折本

●次回は3月28日 掲載予定です。 ※イラストはイメージです。



筑西市  
キャラクター  
ちつくん



●ホームは1面1線のシンプルな構造



●駅西にはロータリーが整備されている

茨城と栃木の県境の駅・ひぐち  
地域は数々の歴史の舞台となった  
明治45年に下館―真岡間が開通した真岡鐵道真岡線。ひぐち駅は平成4年3月に設置された。駅の住所は筑西市折本だが、折本には明治45年に開業した「折本駅」があり、駅の西側から栃木県に隣接する地点まで広がる筑西市の字名の「樋口」が駅名となった。駅名が平仮名になっているのは、秩父鉄道・樋口駅との混同を避けるためだ。樋口地区をはじめとする茨城と栃木の県境は、さまざまな歴史の舞台になった場所。久下田城跡は樋口にある茨城県指定文化財で、筑西市の中心地・下館の名前にも関係する。久下田城は「俵藤太」で知られる藤原秀郷が、平将門討伐のために築いた上館、中館、下館の「三館」のうち、上館にあたる場所と伝えられる。また、県境を東に約6キロメートル進むと、浄瑠璃や歌舞伎の演目として有名な「小栗判官」ゆかりの小栗城跡もある。

## ● 散策コース ●

ひぐち駅から真岡線に沿って北に向かい、しばらく歩くと大きな鳥居がある。樋口雷神社の参道を示す鳥居で、ここから約800m歩くと、神社にたどり着く。源義家が奥州征伐から戻る際、祈願成就のお礼参りをしたことが始まりと言われ、地域の人々からは「雷神様」と親しまれている。本殿、幣殿、拝殿が市の文化財に指定されており、本殿に施される龍などの彫刻は見物。「湯立祭」と呼ばれる行事があり、大釜に浸した笹束から飛び散る湯しずくを浴びると御利益があると言われている。また神事の前には、小栗内外大神宮の太々神楽も奉納される。

樋口雷神社を満喫したら、次は久下田城跡へ。下館城主の水谷正村が、対立していた宇都宮氏から領土を守るための支城として、藤原秀郷が築いた上館跡に築城。何度か攻められたが、水谷氏はいずれも撃退している。多くの遺構が残り、城跡には石碑が建ち、二の丸跡は公園になっている。そこから筑波山を眺めながら五行川に沿って南下する。下館北中の東側の川沿いは、毎年秋にコスモスが咲き誇り、美しい散歩道として人々を楽しませている。

筑西市はイチゴや梨、スイカの名産地。国道50号沿い(筑西市川澄地内)には地域の名産品がそろった道の駅「グランテラス筑西」もあるので、ぜひ訪ねたい。

働く人と、世界を走る。

# ISUZU

## 茨城いすゞ自動車株式会社

本社 / 〒310-0063 水戸市五軒町1-2-5 ☎029-225-1215(代)  
https://www.ibaraki-isuzu.co.jp